

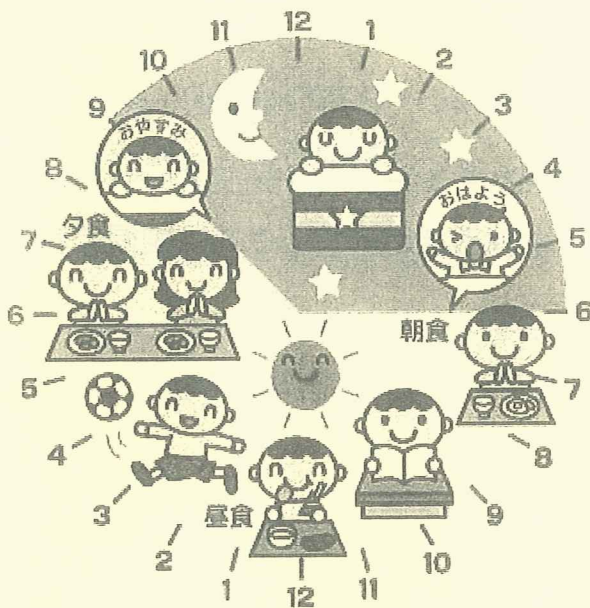
少年センター **だ****よ****り**

守山野洲少年センター
『あすくる守山野洲』

相談は ☎ 583 - 7474 まで

<http://www.usennet.ne.jp/~syonen-c/>

せいかつリズムをつけましょう



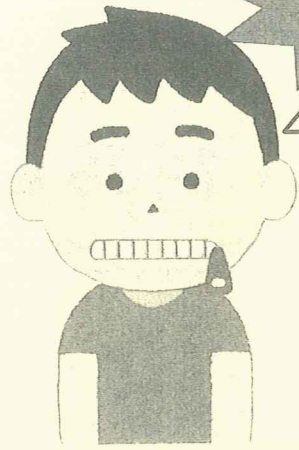
よる、たくさんねると、からだにと
てもよいといわれています。あさに、
ぱっとめがさめます。そして、あさご
はんをしっかりたべましょう。いっば
いたべることでげんきにあそべます。
いえにかえったら、ゆっくりとすごし

ましょう。そうすれば、またぐっすりとねむることができます。

ともだちやかぞくのひとといっしょにそとあそびをし
ましよう。げんきからだをうごかして、あそんだり、

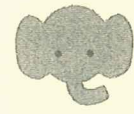
うんどうしたりするとおなかがすきます。そ
うすると、ごはんがたくさんたべられます。
そして、はやくねることもできます。これを
くりかえすと、せいかつリズムがみついで
きます。





「ヤバイ」「うるせえ」「お前」「アホ」「おい」「うざい」「キモ～イ」

子どもの乱暴な言葉遣いに悩んだことはありませんか。注意すればするほど面白がったりして本当に困ってしまいますね。幼児期は、新しいことをどんどん覚えていく時期。乱暴な言葉の出現は、外部から様々な知識を得て、成長している証でもあります。しかし、言葉は、人の心をつなぐこともあれば、つながりを切ってしまうこともあるのです。新しく覚えた言葉が、心をあたためる言葉なのか、人が悲しむ言葉なのか、周りの大人が教えていけたら良いですね。



●頭ごなしに叱らない

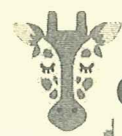
子どもが耳を疑うような汚い言葉を使っていたら、すぐにでも止めさせたいくなります。でも、「そんな言葉を使ってはいけない」と言うだけでは子どもは納得できません。

なぜそんな言葉を使ったのか、どんなことを相手に伝えたかったのか。まず、子どもの考えを聞きましょう。



●正しい言葉の使い方を教える

子どもが何を伝えたかったのか聞くことができれば、「そんなときはこう言えばいいんだよ」「こんな言い方なら自分も相手もハッピーな気持ちになるね」と正しい言葉の使い方を教えてあげてください。



●なぜ言うてはいけないのか

自分は軽い気持ちでも、相手は乱暴な言葉を受けて大きなショックを受けることがあります。子どもが乱暴で汚い言葉を使ったら、自分が言われたらどう感じるか、悲しい気持ちになる人がいること、相手の気持ちを考えることを教えてあげてください。



●時にはクールな態度で

子どもは大人の反応を面白がるもの。「うんち」や「おっぱい」「おしり」などの連呼に対して過剰な反応はせず冷静に。食事時や多くの人が集まる場所など、時と場所によっては他人に迷惑をかけることを教えてあげてください。



●大人が良いお手本になる

子どもは聞いていないように見えて、身近な大人の何気ない会話を聞いています。また、大人同士では冗談で済む話でも、子どもは言葉そのままに受け取ってしまいます。

子どもだからわからないだろう、遊びに夢中だから聞いていないだろうと思わず、大人の言動は常に子どもたちのお手本になっていることを意識してください。



●日常のあいさつを大切に

「おはよう」「おかえり」「ありがとう」など、日常の基本となる言葉も大切です。子どもは成長に伴い、家族以外の人と出会う機会が多くなります。外でも自然にあいさつができるように、まずは家庭内のあいさつを大切にしましょう。

きをつけましょう

こうえんやいえのちかくであそんでいるときに、ふしんなひとがいたら、すぐにおとなのひとにしらせましょう。また、おおごえをだして、ひとをよびましょう。



ともだちとあそんでいても、くらくなるまえにおうちにかえりましょう。くらくなると、きけんがいっぱいです。



そして、知らないひとには、ぜったいについていってはいけません。

「おかしをあげる」といわれても「いらない」とことわりましょう。

みんなのちかくに、しょうねんほどういいんがいます。

えんにいくときやかえるときに、きみどりいろのベストとわんしょうをして、「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」といって、みんなをみまもっています。



もりやまやすしょうねんセンター「あすくるもりやまやす」

077-583-7474 こまったことがあったらでんわしてね